

**HUMANE  
INTERNATIONAL  
NETWORK  
(HINT)**

—————HINT News Letter No. 48 目次—————

- Page1: 第39回エポペ・クリスマス2018のご案内  
Page2: アフリカ事業報告  
Page3-4: 「史上最悪の事態」エボラ出血熱  
Page5: アフリカ映画の窓  
Page6-7: 2018年度総会報告  
会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿  
Page8: 事務局からのお願い・お知らせ

**第39回エポペ・クリスマス降誕ミサ  
& チャリティパーティ2018のご案内**

—エボラ出血熱・緊急コンゴ支援—

後援：東京都認証NPO法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク（HINT）

**日時：12月22日（土）17時～21時30分**

**場所：第1会場 カトリック松原教会 ミサ・講演17時～18時30分**

（京王線明大前駅より徒歩5分・8ページの地図参照）

東京都世田谷区松原2丁目28番5号 TEL. 03-3321-0941

第2会場 **イタリア料理バッカ**（明大前駅から58m）19時より

東京都世田谷区松原2丁目22番18号 TEL. 03-3325-8801

**司式 オノレ・カブンディ**



**淳心会司祭・コンゴ民主共和国出身**

アフリカ・コンゴ民主共和国の現在を映像や音楽を通してご説明いただきます。

◇ ◇ ◇

HINT（（特活）ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク）は、1994年に発生したアフリカのルワンダ虐殺時の難民支援のために創設された東京都認証NPO（非営利活動）法人です。現在はイエス・キリストの教えにしたがい、開発途上国における教育や保健医療、農村開発などを通じて、国境を超えた支援活動を続けています。息の長い継続が必要な奨学金運営では20年以上の実績があり、教会や他団体との連携を活かしつつ、貧困状態が続く地域で多くの人材と希望を育てています。

## アフリカ事業報告

アフリカ・コンゴ民主共和国（以下、コンゴ）における奨学金支援事業の状況につきまして、現地のコーディネーター・タデー氏からの報告書が届いております。以下に一部を掲載させていただきます、あらためまして皆さまの温かいご支援に心より感謝申し上げます。

### ■奨学生内訳

小学生：4名、中高生：16名、大学生：4名

### ■学生の氏名と学校の成績表（画像）。

成績は「%」の項目で表されています。

（下記の氏名の項目は、コンゴの子供たちの個人情報保護の観点から一部のみの公開とさせていただきます。何卒ご了承くださいませようお願いいたします。）

## Humane International Network Japan

### HINT AFRICAN PROJECT

BUKAVU, DRC PROGRAMME

P.O. BOX 316 CYANGUGURWANDA

078, Avenue Patrice Emery LUMUMBA, Commune IBANDA, BUKAVU, Sud-Kivu, RDC

Tel. (+243) 812513197 - 997604466 853717360

E-mail: mutawahd@yahoo.fr

## SCHOOL ACTIVITIES RESULTS SCHOOL YEAR 2017 – 2018

### A. PRIMARY SCHOOL (EEP)

N°	Name and post name	Sex	School Name	Date of Birth	Class	%	Observations
01	Germain	M	Lycee International	04/10/2006	4 <sup>th</sup>	79,0	Distinction
02	Agghi Augustin	M	C.S. LA REJOUISSANCE	00/03/2012	1 <sup>st</sup>	76,0	Distinction
03	ana	F	EP. IBANDA	24/09/2005	5 <sup>th</sup>	60,0	Satisfaction
04	AGHI	F	C.S. LA REJOUISSANCE	24/09/2010	3 <sup>rd</sup>	76,0	Distinction

### B. HIGH SCHOOL (HSP)

N°	Name and post name	Sex	School Name	Date of Birth	Class	%	Observations
01	GO	F	EDAP/ISP	09/10/1998	6 <sup>th</sup> M.P.	72,0	Obtained her State diploma
02		F	Institut FARADJA	12/01/2003	3 <sup>rd</sup> H.P.	52,6	Satisfaction
03	FUNGA	M	Lycée AMANI	28/05/2003	1 <sup>st</sup> C.O.	50,5	Satisfaction
04	LA	F	Institut FADHILI	15/06/1995	5 <sup>th</sup> H.P.	54,1	Satisfaction
05	A	M	EDAP/ISP	27/07/2003	1 <sup>st</sup> C.O.	52,0	Failed
06	MA	M	Institut MUNZHIRWA	14/04/1993	8 <sup>th</sup> SC.	64,0	Obtained his State diploma
07	ienne	M	C.S. KHAMI	09/01/1995	5 <sup>th</sup> Elec.	58,0	Satisfaction
08	O	M	Institut ELIMU	02/01/2006	1 <sup>st</sup> C.O.	60,0	Satisfaction
09		F	Institut Mgr. BYA'ENE	18/06/2003	3 <sup>rd</sup> H.P.	51,7	Satisfaction
10	ngansubi	M	Institut KASALI	30/09/2002	2 <sup>nd</sup> C.O.	58,0	Satisfaction
11	ngilwa Junior	M	Institut BAHATI	16/11/2000	6 <sup>th</sup> THS	76,0	Obtained his State diploma
12	sa Rifa	F	Institut ELIMU	04/07/2001	4 <sup>th</sup> H.P.	54,0	Satisfaction
13	so Ricardo	M	Institut ALFAJIRI	03/04/2000	6 <sup>th</sup> SC.	78,0	Obtained his State diploma
14	Françoise	F	Institut KASALI	06/05/2003	1 <sup>st</sup> C.O.	50,0	Satisfaction
15	deriwa	F	Institut TEBURA	08/02/2000	5 <sup>th</sup> THS	61,0	Satisfaction
16	si	F	EDAP/ISP	11/05/2001	2 <sup>nd</sup> C.O.	58,0	Satisfaction

### C. UNIVERSITY PROGRAMME

N°	Name and post name	Sex	School Name	Date of Birth	Class	%	Observations
01	KAMBILWA	F	Un S. KIMBANGU	18/12/1994	G3 Publ. Health	58,0	Obtained her Diploma
02		F	UEA/BUKAVU	08/06/1994	G3 Sc. Social	57,6	Obtained her Diploma
03	HANGO	M	UCB/ Bukavu	18/06/1991	Doc 4 Medicine	61,0	Obtained his Diploma
04	SAGHI	F	UEA/BUKAVU	17/01/1998	G1 Bio Medical	-	Abandon



Done at Bukavu, on October 31, 2018.

Mr. MUSAGHI K. THADDEE

COUNTRY HAP/DRC COORDINATOR

## 「史上最悪の事態」エボラ出血熱

HINTでは20年以上にわたり、アフリカ・コンゴ民主共和国（以下、コンゴ）東部南キブ州のブカブで奨学金の運営を行っております。

コンゴの保健相は2018年11月9日、エボラ出血熱について、このブカブにも程近い、東部の北キブ州で今年の8月に新たな感染が確認され、以来、現時点で319人の感染、198人の死亡を確認し、「史上最悪の事態」であると発表しました。WHO（世界保健機関）はウガンダなど隣国に今後、感染が拡大していく可能性があるとしています。

コンゴでは、旧・ザイル時代の1976年に、国内を流れるエボラ川近くで、世界で最初の感染が確認されて以来、エボラ出血熱の流行が9回起きています。現在の状況について、HINTでも講演をいただいた「MSF 国境なき医師団」のプレスリリースから抜粋してご紹介いたします。

### エボラ出血熱の脅威

コンゴの北東部で続くエボラ出血熱の流行に、国境なき医師団（MSF）は対応を続けている。北キブ州とイトゥリ州のエボラ治療センターでは、感染患者の治療とともに、感染制御と予防、除染と消毒、トレーニングなどを通じた支援を進めている。8月1日にコンゴ保健省がエボラ流行宣言を出してから約3カ月。これまでの症例数やMSFの対応をまとめた。

これまでの数字（2018年10月25日現在・コンゴ保健省発表） 合計症例数：251件（確定例 216件、および ほぼ確実※例35件）

確定例のうち、死亡した人数：162人（確定例 127件、および ほぼ確実例35件）

治癒者数合計：67人

活動中のMSFスタッフ：100人（北キブ州とイトゥリ州のエボラ・プロジェクト）

※「ほぼ確実」は、この地域で亡くなった人のうちエボラ確定例と関連があったが埋葬前に検査できなかった人。

### 現在の状況

これまでに、北キブ州とイトゥリ州内にある10の保健区域（マンディマ、マバラコ、ベニ、オイシャ、ブテンボ、カルングタ、コマダ、マサレカ、ミュージヤンエヌ、チョミアでエボラの確定例、またはほぼ確実例が報告されている。

現地は今回の流行で2度目のピーク期を迎えている。流行の中心はもともとの発生地で

あるマンガナ村から大都市ベニに移り、10月に入って確定例が目に見えて増加。北キブ州では9月、症例数が減少していると見られていたが、現在、状況はより深刻になっている。

コンゴ保健省と世界保健機関（WHO）の疫学チームは、ウイルスに接触した人の追跡調査と経過観察を続けている。ただ、調査は一筋縄ではいかない。感染地の人びとは仕事や家庭の事情で移動が多く、村から村へと渡り歩いている。そのため医療機関もいろいろな場所で受診する。エボラの疑い例と分かり治療センターに搬送されるまでに、2ヵ所以上の診療所を受診していることが多い。流行の始まり以来、特定された接触者は8000人余り。現在2700人以上が保健省による経過観察を受けている。



保健大臣による「エボラ出血熱」発生の発表

### 開発中の薬による治療

エボラ治療センターでは対症療法を充実させている。経口あるいは点滴による水分補給、マラリアなど他にも感染している病気の治療を追加するほか、感染が確認された患者には、承認前の新しい治療薬をガイドラインに沿って勧めている。臨床医チームが随時、5つの候補薬（ファビピラビル、レムデシビル、REGN3470-3471-3479、ジーマップおよびmAb114）から治療薬を選び、患者、または家族へのインフォームド・コンセントで合意が得られた場合にのみ、対症療法に加える形で行われる。

この5つの治療薬はまだ臨床試験が済んでおらず、有効性は未知数だ。それでも、患者の回復につながる可能性があるため、保健省とMSF双方の倫理委員会の承認を受けた上で、厳格なプロトコルに従って使用されている。特に重視されるのは患者へのインフォームド・コンセントだ。正式な臨床試験の実施に関する協議は、現在も続いている。

## 感染予防と制御

エボラ治療センターでの治療に加えて、MSFは感染の予防と制御にも注力している。マンガナとベニで陽性例が出た医療施設では、除染・消毒作業を行い、さらにイトゥリ州でもマンバサとマケケ、ブニアからチョミアまでの地域で活動している。医療施設を訪問し、スタッフを訓練して適切にエボラ疑い例のトリアージュを行えるようにするほか、隔離室も必要に応じて設置できるようにしている。

さらに、北キブ州とイトゥリ州内にあるMSFの全てのプロジェクトで、防護服などのエボラ対応備品を準備し、適切な衛生・感染制御ガイドラインを導入。患者を感染リスクから守り、流行拡大を防いでいる。

## 予防接種と健康教育

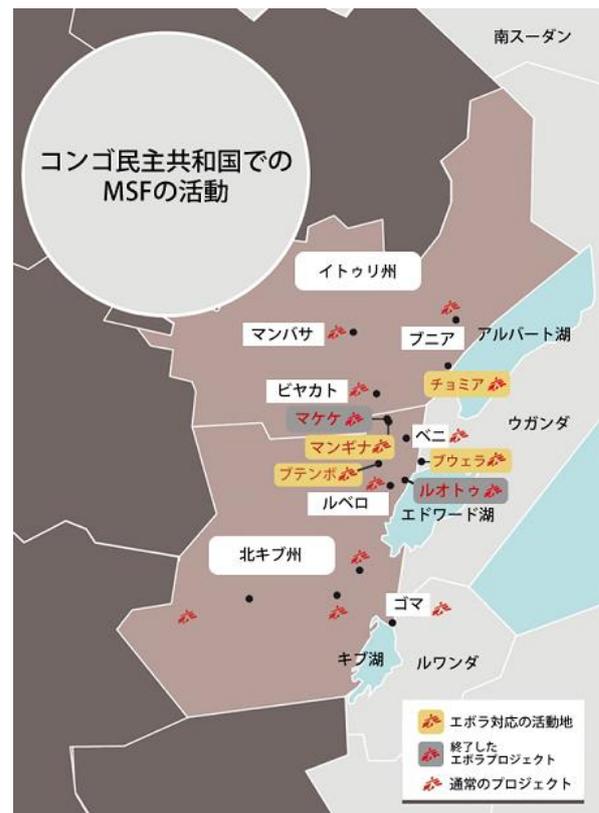
北キブ州からイトゥリ州への感染拡大防止のため、州境の地域で医療スタッフ、宗教指導者、埋葬人など、感染リスクの高い人に予防接種を実施。マンガナで暮らす住民はイトゥリ州へ行く人が多いことから、予防接種で州を越えたさらなる感染拡大の防止が期待されている。これまでに、感染リスクの高い360人がMSFによる予防接種を受けた。10月18日、MSFはベニでも感染リスクの高い人を対象に予防接種を開始した。こうした活動は地域社会との調整が重要となるため、MSFの健康教育チームが地域のリーダーと連絡を取り、エボラについて、地域の状況についての情報交換を行っている。

## エボラ対応の課題

北キブ州のベニでは10月初めから症例数が激増した。新規症例の多くは他のエボラ患者の接触者リストに載っていない患者だ。ウガンダとの国境にあるアルバート湖地域に流行が広がっているのも懸念される。

現地で続く情勢不安により、流行の封じ込めが難しくなっている。ベニでは9月22日に襲撃事件が起こり、医療活動が全面的に停止した。この間は、エボラ患者の接触先の経過観察が不可能になった。また、危険で立ち入れない「レッド・ゾーン」ではエボラ患者の接触先を追うことは難しい。医療従事者に対する暴力もかなり深刻である。特に、感染制御のための安全な埋葬を行うチームは、埋葬方法が現地の伝統に反した形であるため、地域社会への説明が非常に難しい。

エボラ対応では、地域社会の信頼を得ることが重要だ。だがコンゴでは、長年の紛争により、住民の当局への不信感が根強くある。恐怖や抵抗を感じている人びとに対し、なぜエボラ治療センターに来ることが重要なのか、治療に来れば、愛する家族や友人を感染から守ることができるかと納得してもらうこともMSFの仕事だ。これは地域社会との良好なコミュニケーションを通じて初めて実現する。MSFは特に流行の中心となっているベニで、地域の信頼を得るための努力を続けている。



※8月にコンゴ民主共和国で流行が宣言されたエボラ出血熱の拡大が現在も続いています。10月25日までに確定した症例とほぼ確実な症例の数は計251人に上り、うち162人が死亡、67人が治療によって治癒しました。国境なき医師団（MSF）の緊急チームは、コンゴ保健省の要請を受け、エボラ対策の調整とともに、感染者の治療を担うほか、感染制御と予防、除染と消毒、研修などの支援を行っています。（2018年11月13日現在）

■出典 MSFプレスリリース「エボラ流行から3ヵ月 現地ではMSFの対応が続く」（2018年11月6日）より抜粋。

■お願い 「MSF 国境なき医師団 緊急チーム」へのご支援、ご寄付等は、直接、MSF事務局にお問い合わせください。

## アフリカ映画の窓

高倍宣義

世界中で難民が、平和と安全を求めて大移動する時代になった。受け入れ国では、日常が脅かされると、政治問題になってしまった。

第1次世界大戦終結から100年が経った。大戦はアフリカを巻き込んだ。フランス紙によれば、フランスは植民地制圧のために設けたアフリカ人歩兵をヨーロッパ戦線に使った。マダガスカル、サブサハラ、マダガスカルから約50万人が動員され、多くの犠牲者を出した。

英国も20万人以上動員した。ドイツの植民地を狙うフランス、イギリス、ベルギーに、南アフリカやイタリアも加わった。戦争当事国は、現地で兵、荷役を徴用するので、アフリカ人同士が戦った。

秋にコンゴ民主共和国のデニ・ムクウェゲ婦人科医(63)がノーベル平和賞を共同受賞したので、彼の人権活動を追った「女を修理する男」の上映会が増えた。

2つの映画祭でアフリカ映画が上映された。10月の新宿K's シネマで催された『ドキュメンタリー／ドリーム・ショー山形 in 東京2018』では、

■ハイレ・ゲリマ監督「テザ 慟哭の大地」(2008)など3作品が上映された。

■ジャン＝マリ・テノ監督「アフリカ、お前をむしりとる」(1992)は、植民地化からP.ビヤ現政権までのカメルーンの苦い歴史をたどる。

■レイモン・ドゥパルドン監督「アフリカ、痛みはいかがですか？」(1996)は、紛争・戦争が沈静し始めたアフリカを喜望峰からアレクサンドリアまで訪ねた記録。



©「山形国際ドキュメンタリー映画祭」

11月～12月にアンスティチュ・フランセで催される『交差する視点 - 日仏インディペンデント映画特集』でもアフリカ映画が2本上映される。

■ジャン・ルーシュ監督「人間ピラミッド」(1961)は、アビジャンの高校の転入生ナディーンを巡る異人種間交流。

■ラシデ・ジャイダニ監督「ランゲン」(2012)は、キリスト教徒のアフリカ系青年が、マダガスカル女性との結婚を望むことで起きる「聞き古された流行歌」。

新しいアフリカ関連作品を紹介する。

■篠田伸二監督「シンプルギフト～はじまりの歌声」(2017)全国順次公開中。ウガンダの孤児等がNYの舞台上で歌と踊りを披露するドキュメンタリー。



©篠田伸二

■サラ・ドライバー監督「バスキア、10代最後のとき」(2017)。12月22日より YEBISU GARDEN CINEMA 他全国順次公開。

NYのアーティストJ-Mバスキア(1960～88)を知る人々が、彼の芸術の原点を語る没後30周年記念作。



©2017 Hells Kitten Productions, LLC. All rights reserved. LICENSED by The Match Factory 2018 ALL RIGHTS RESERVED Licensed to TAMT Co., Ltd. for Japan Photo by Bobby Grossman

## 2018年度総会報告

下記のとおり、2018年度総会を開催しました。すべての議案が承認可決されましたので、ここにご報告いたします。

### 記

- 日時：2018年6月30日(土)18:30~19:30
- 場所：新宿区戸塚地域センター  
5階 会議室2
- 正会員数13名 出席会員数12名

### 1. 2017年度事業報告

詳細については事務局保管の議事録を参照してください。

### 2. 2017年度決算報告

右記をご覧ください。

### 3. 2018年度役員改選

代表	進藤	重光(再任)
事務局長	石田	達也(再任)
事務局長代行	長野	圭子(再任)
理事	高橋	章(再任)
理事	桐山	泰柁(再任)
理事	谷口	雅司(再任)
理事	野坂	俊弥(再任)
監査	武井	秀彦(再任)

### 4. 2018年度事業計画

エボラ出血熱についての現地の厳しい情勢につきましては、冒頭でご説明した通りですが、おかげさまで、現在のブカブは落ち着いているとの報告を受けています。学生たちも通常通り、学校に通って授業を受けているとのことです。

来年はHINT創設25年を迎え、できれば、現地にPCやプリンタ、ネットの接続を図ってもらい、直接情報発信ができるような体制ができればと願っております。皆さまのご支援を何卒よろしくお願いいたします。

なお、詳細につきましては、事務局保管の議事録を参照していただきますようお願いいたします。

### 5. 2018年度予算計画

次ページをご覧ください。

## 2. 2017年度決算報告

2017年5月1日~2018年4月30日 単位：円

I	経常収益	
1	受取会費	
	正会員受取会費	155,000
	賛助会員受取会費	435,000
2	受取寄附金	
	受取寄附金	16,524
3	受取助成金等	
	受取補助金	0
4	事業収益	
	普及啓発事業収益	93,110
5	その他収益	
	受取利息	0
	経常収益計	699,634
II	経常費用	
1	事業費	
	(1)人件費	0
	(2)その他経費	
	経済的支援事業	
	奨学金	596,812
	保健衛生支援	0
	福利厚生費	0
	送金手数料	16,000
	普及啓発事業費	
	出展料	0
	原材料費	0
	会議費	0
	講師謝礼	0
	雑費	0
	広報事業費	
	通信費	32,292
	印刷費	0
	消耗品費	2,014
	その他経費計	647,118
	事業費計	647,118
2	管理費	
	(1)人件費	0
	(2)その他経費	
	通信費	81,952
	会議費	4,800
	消耗品費	3,596
	印刷費	0
	雑費	0
	その他経費計	90,348
	管理費計	90,348
	経常費用計	737,466
	当期経常増減額	-37,832
	税引前当期正味財産増減額	-37,832
	法人税、住民税及び事業税	0
	当期正味財産増減額	-37,832
	前期繰越正味財産額	57,068
	次期繰越収支差額	19,236

## 5. 2018年度予算計画

2018年5月1日～2019年4月30日 単位：円

I 経常収益	
1 受取会費	
正会員受取会費	160,000
賛助会員受取会費	420,000
2 受取寄附金	
受取寄附金	20,000
3 受取助成金等	
受取補助金	0
4 事業収益	
普及啓発事業収益	100,000
5 その他収益	
受取利息	1,000
経常収益計	701,000
II 経常費用	
1 事業費	
(1)人件費	0
(2)その他経費	
経済的支援事業	
奨学金	506,000
福利厚生費	0
保険衛生支援	10,000
送金手数料	12,000
普及啓発事業費	
出展料	10,000
原材料費	20,000
会議費	5,000
講師謝礼	20,000
雑費	
広報事業費	
通信費	35,000
印刷費	1,000
消耗品費	3,000
その他経費計	622,000
事業費計	622,000
2 管理費	
(1)人件費	0
(2)その他経費	
通信費	90,000
会議費	5,000
消耗品費	2,000
印刷費	1,000
雑費	236
その他経費計	98,236
管理費計	98,236
経常費用計	720,236
当期経常増減額	-19,236
税引前当期正味財産増減額	-19,236
法人税、住民税及び事業税	0
当期正味財産増減額	-19,230
前期繰越正味財産額	19,230
次期繰越正味財産額	0

会費納入者・寄付者及び物品寄贈者名簿 (2018.5.1-10.31・順不同・敬称略)
--

赤羽教会チャリティーコンサート実行委員会

勝本健司	グエン・テ・ホン
酒井 匠	村井厚子
東矢 高明	石原 達哉
若林 和子	石田 達也・倫子
品田 和之	森川 浩一郎
石間 裕	神山 和美
末永 秀雄・美津代	山田 篤
佐藤 健一	古城 かほる
禹 満	井上 静子
加藤 順子	村上 夫光子
比嘉 勇也	高澤 佳代乃
米村富士子	持田 二郎・裕子
進藤 重光	佐賀 邦夫
高橋 章	狩野 繁之
武井 秀彦	国分 一也
黒川 京子	長野 圭子
岸田 万紀子	匿名の皆様

ご支援・ご協力ありがとうございました。

★上記期間内に会費納入やご寄付をされている方で、名簿に載っていない方は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

★HINT はコンゴ民主共和国の東部地域で、子供たちの奨学金を20年にわたって運営している日本で唯一のNGOです。皆さまの年会費5,000円やご寄附で、多くの子どもたちが夢と希望を持つことができます。この奨学金による卒業生は医師や教師、公務員、ビジネスマンなどとして現地で活躍しています。

★封筒ラベルの一番下にある日付が、貴方の最終振込み日です。

★郵便局の振込金受領書は、正式な領収書ですので、大切に保管してください。

★振替用紙は郵便局から事務局にコピーが届きますが、判読しづらい場合があります。楷書で分かりやすくご記入いただきますとたいへん助かります。

## HINT 事務局からのお願い

### 会費振込のお願い

皆さまの会費やご寄付が命綱です。お振り込みは同封の振込用紙を使用していただくか、下記口座へお振込みくださいますようお願いいたします（賛助会員：1口5,000円から・学生会員：1口2,000円から。ご寄付の場合はご随意にお願いいたします）。

■郵便振替：00120-1-596327

口座名義：特定非営利活動法人 HINT

■ゆうちょ銀行：

記号 10010 番号 26990711

（他銀行から振り込む場合 店名：008

種目：普通 番号：26990711）

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

■三井住友銀行：新宿支店

普通預金：3390001

口座名義：特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク

### ● ボランティアを募集しています

HINT ではボランティアを募集しています。非営利活動を支えるのは、皆さまからの大切な会費収入と同時に、日々の小さな事務作業の積み重ねです。

印刷作業や荷物運び、翻訳などのテンポラリーなボランティアの仕事もあります。登録ボランティアとして、メールアドレスをご登録いただき、ご都合のつく時に、実務的な作業に随時ご協力いただければ幸いです。皆さまの積極的なお申し出をお待ちしています。

ご連絡・お問い合わせ先：

HINT 事務局 E-mail: [hint\\_info@epopee.co.jp](mailto:hint_info@epopee.co.jp)

特定非営利活動法人ヒューメイン・インターナショナル・ネットワーク (HINT) 事務局

〒164-0002 東京都中野区上高田 3-24-7 平兵衛内

電話&FAX: 03-6279-1080

e-mail: [hint\\_info@epopee.co.jp](mailto:hint_info@epopee.co.jp)

ホームページ: <http://www.epopee.co.jp/hint>

## HINT 事務局からのお知らせ

### ● 「赤羽教会チャリティーコンサート」に参加しました

日時：2018年8月25日（土）開演 14:00

場所：カトリック赤羽教会 信徒会館 2階

アジア・アフリカの子供たちと大震災復興支援のためのチャリティーコンサート。HINT はボランティアの方々と共に支援先の雑貨を紹介し、PR 活動をしました。

### 《今後の活動予定》

### ● 第 39 回エポペ・クリスマス 2018 を開催します

日時：2018年12月22日（土）

場所：カトリック松原教会 17:00~18:30

イタリア料理バッカ 19:00~21:30

（京王線特急で1駅・明大前駅すぐ）

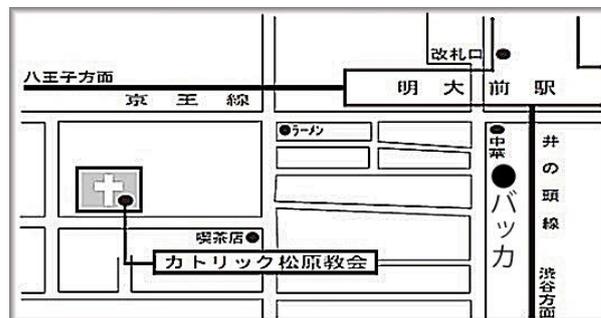
会費：6000円（飲み放題・未就学児無料）

降誕ミサ司式・講演

オノレ・カブندی神父による

『コンゴのいま——映像と音楽の紹介』

大変好評だったコンゴ民主共和国出身のオノレ神父の講演会を、今年も松原教会で開催いたします。今回は現地の音楽や映像を使って現地の希望と夢をお伝えします。また、エボラ出血熱の状況やHINTの奨学生たちの姿もご紹介いたします。その後は2時間半の楽しい飲み放題のクリスマスパーティを行います。ご家族ご友人をお誘いあわせのうえ、どなたでもお越しください。パーティ会場（下記地図のバッカ）からのご参加の方も大歓迎です。



松原教会（駅徒歩5分）／バッカ（同58m）